

8. センターを運営する学生スタッフの育成

大学ボランティアセンターの運営形態は大学によって様々ですが、本学のボランティア・NPO 活動センターでは、教育職員・事務職員・学生スタッフの三者が協働して運営しています。中でも、学生スタッフは「ピアサポート」という観点から、本学学生のボランティア活動を応援する重要な役割を担っています。

ボランティア相談をはじめとする日常的なコーディネート業務、チラシ整理やメールマガジン、SNS などでの情報提供、ボランティア活動を始めるきっかけとなる様々な企画など、学生スタッフが取り組んでいることは多岐にわたり、そのためには幅広い知識や経験が必要となってきます。

このことから、ボランティア・NPO 活動センターでは、ボランティア活動を推進していくために、社会課題に対する意識を持ち、社会に働きかけていく力をもった学生スタッフの育成を図るとともに、組織運営力、コーディネート力をつけることなどを目的として、学生スタッフへさまざまな研修の機会を提供しています。

事業名	2017年度オリエンテーション合宿 学スタツムツム!!～集めてなぞってつなげよう～（継続企画9年目）
日時	2017年6月3日（土）～6月4日（日）1泊2日
場所	龍谷大学セミナーハウス「ともいき荘」
実施主体	ボランティア・NPO 活動センター
参加人数	学生スタッフ114名（深草62名・瀬田52名）
企画メンバー （学生スタッフ）	藤原 純（文学3） 辻 祐児（法学3） 多田涼太（理工3） 山本加奈（社会3） 吉田 響（文学2） 桑原田 海（法学2） 石田進登（理工2） 加藤翔汰（農学2）

1. 経緯・目的

オリエンテーション合宿は、新学生スタッフがボランティア・NPO 活動センター（以下、ボラセン）での活動を理解し、体感する場である。上回生スタッフは今までの活動のふりかえりや、今後の活動について改めて考えるためのものである。

特に今回のオリエンテーション合宿では以下の4つのことを目的として、合宿を行なった。

- (1) ボランティア活動及びボラセンの活動を理解、再認識する。
- (2) 1泊2日の合宿を通して、深草・瀬田の学生スタッフ同士や、学生スタッフと職員の交流を行う。
- (3) 学生スタッフの持つ責任や役割を考える。
- (4) ボラセンの魅力を知ることにより（ボラセンを好きになることにより）、学生スタッフ一人ひとりが自覚や成長、信頼、安心について考えるきっかけにする。

2. 概要

〈1日目〉

- 12：00 集合
- 12：30 スタート

- 12：40～12：55 アイスブレイク
- 13：00～16：00 コミュニケーションワーク
- 16：00～17：15 センター理解
- 18：00～20：20 夕食、入浴
- 20：30～21：30 交流会
- 23：00 就寝

〈2日目〉

- 8：00～ 8：45 朝食
- 9：00～12：00 コーディネートワーク
- 12：00～13：00 昼食
- 13：00～14：00 まとめワーク
- 14：00～14：30 クロージング
- 15：00 解散



【プログラム内容】

(1) 「アイスブレイク」

深草・瀬田混合のグループを作り、項目を限定しない嘘見抜きゲームを行った。そのことにより学生スタッフの緊張をほぐした。

(2) 「コミュニケーションワーク～みんなで会話をつむみましょう～」

①今までの自分のコミュニケーションについて考える。

②1対1ワークで自身のコミュニケーションの姿勢を見つめ直す。

③グループワークで、どのようなコミュニケーションをとれば良いのかをグループ毎で話し合い、グループにおけるコミュニケーションについて見直す。

④①～③を通じて、今までと現在の自分のコミュニケーションについて考え、今後どのように取り組むかを考えた。

(3) 「ボランティア・NPO 活動センター理解」

竹田コーディネーターから、センターの設置目的や沿革、ボランティアコーディネーションなどについて学んだ。

(4) 「学スタ活動&コーディネートワーク（極意伝授ワーク）」

①各班で上回スタッフから新スタッフにカードを使い学生スタッフの活動を説明。

②昨年度の学生スタッフの活動をまとめた動画を上映。（学生スタッフの活動を認識及び再認識する。）

③模擬コーディネートを行い、実際の学生スタッフの活動を体感する。さらにはボランティアが行われる背景についても考え、話し合う。

(5) 「まとめワーク」

各個人でこの2日間の合宿をふりかえり、一番印象に残ったことを書きだした。そしてそれを班・全体で共有した。その後、ボラセンの魅力は多様であることを可視化して認識するために、全員から出た魅力を1枚の模造紙にまとめた。

3. 参加者の声・得られた効果など

(1) 参加者の声

- ・他の回生、学舎の人と交流できて良かった。
- ・話し合いに多様な役割があることに気付いた。
- ・聴く姿勢の大切さに気付くことができた。
- ・センター及び学生スタッフの活動を学べた。
- ・学生スタッフの活動、役割について再認識した。
- ・上回生スタッフとしての自覚をもてた。
- ・ボラセンの魅力が多様であることに気付けた。
- ・学生スタッフ同士がつながりあうことの大切

さを感じた。

(2) 得られた効果

全体として異なる回生、キャンパスとの交流を促進し、センターの活動を理解、再認識することが出来た。また、センターには多様な魅力があることも確認することが出来たと考える。このことからこの合宿の目的は達成できたと感じている。

4. 学んだこと・今後の課題

反省点として、大きくは以下の2つがあげられるが、このことを通じて、当日の運営では時間調整など、その場に応じて臨機応変に対応することの重要性を再認識することができた。

①情報共有不足

学生スタッフの途中参加や途中抜けの情報共有が十分でなかったため、座席や食事において人数変更で混乱が生じた。

②準備物の不備

印刷物などに一部不備があった。

良かった点としては、今までは当日に徴収していた参加費用を事前に集め、受付の混乱を緩和したことである。また、「ワークショップを通じて各個人が聴く姿勢について改めて考えることができた」「センター及び学生スタッフの活動の多様性や魅力について体感することができた」といった参加者の声から、今回の合宿で目標としていたことが達成できたのではないかと考えている。

今後はこの合宿で学んだことを日々の活動に生かし、ボランティア啓発活動を促進していきたい。

5. 経 費

【深草】 合宿補助費@1,029×41名 = 42,189円

交通費補助 23,980円

【瀬田】 合宿補助費@1,029×37名 = 38,073円

交通費補助 37,290円

合 計 141,532円

(交通費は7割上限1,000円)

〈報告者：辻 祐児〉



事業名	深草夏合宿 レンズ越しのチャンス（継続企画7年目）
日時	2017年9月12日（火）～9月13日（水）1泊2日
場所	大阪市立長居ユースホステル（大阪市東住吉区長居公園1-1）
実施主体	ボランティア・NPO 活動センター（深草）
参加人数	学生スタッフ49名 コーディネーター1名
企画メンバー （学生スタッフ）	玉川隆明（文学2） 土橋茉奈（文学2） 平尾匡識（文学2） 村井俊介（文学2） 米本圭吾（経済2） 杉本理沙（政策2） 富上弥生（政策2） 木村太翼（文学1） 佐々木大悟（政策1） 佐藤鴻河（政策1）

1. 経緯・目的

現在深草キャンパスでは、企画や班活動において学生スタッフ間の連携不足や情報の共有不足が振り返りの場で何度か課題としてあがっている。今回の夏合宿はこの課題を解決するきっかけとすることで、学生スタッフ同士の連携がセンターの活動における重要な一つの要素であることを実感し、互いにより信頼のおける関係で今後の活動を行えるようにすることを目的にこの合宿を企画した。特に以下の4つのことを目的として、合宿を行なった。

- ・前期に行った活動の振り返りを行うことで良かった点及び反省点を明確にする。
- ・学生スタッフ自身が各活動で果たす役割について考える。
- ・一泊二日の合宿を通して学生スタッフ同士や学生スタッフと職員の交流を図る。
- ・ワークを通して、互いに信頼し合える関係とはどのようなものかを考える。

2. 概要

(1) スケジュール

〈1日目〉

- 13:30 集合
- 14:00～14:50 開会式、アイスブレイク
- 15:00～17:30 ワーク①
- 18:00～18:50 夕食
- 19:00～21:00 交流会（公園内でスタンプラリー）
- 21:10～23:10 入浴
- 23:30 就寝

〈2日目〉

- 7:30～8:30 朝食
- 9:00～11:45 ワーク②
- 12:00～12:45 昼食
- 13:00～15:00 ワーク③
- 15:10～15:40 まとめ、閉会式
- 15:50 解散

(2) プログラム内容

・アイスブレイク

グループを作り、制限時間内にリレー形式で学生スタッフの似顔絵を完成させるゲームを行

なった。そのことにより参加者の緊張をほぐした。

・ワーク①

シフトや班活動など前期の活動を振り返り、それぞれの活動をどのような位置づけで行なっているか、活動写真を用いながら各班で考えた。また、ワールドカフェの形式を用い、他の学生スタッフの意見や考えを聞けるようにした。

・ワーク②

互いを知るために大切なことを書きだし、そのために必要な行動とは何かについて話し合い、模造紙に記録した。このことにより、日々の活動において今後どのようなコミュニケーションを図るべきかを考えた。

・ワーク③

目標と目的の違いを認識した上で後期の新たな目標を設定した。ワークシートに記入し、他の参加者へ向けて発表した。別紙にも同じ目標を記入し、全員から出た目標を一冊のノートに貼付した。このことにより、それぞれの目標を後期活動中に見直すことができると考えた。

3. 参加者の声・得られた効果など

(1) 参加者の声

- ・ボラセンの役割を分かりやすく確認できた。
- ・自分たちの活動がボランティア団体や他の学生にどのような影響を及ぼすのか考える良い機会となった。
- ・コミュニケーションをとる上で大切なポイントを学ぶことができた。
- ・普段話さない人と話せてよかった。
- ・目標を人前で発表することが後期の行動につながると思う。



- ・ボラセンに入った動機やこれから頑張りたいこと、後期の目標を確認し明確にできた。
- ・自分の目標をまず達成できるように頑張ろうと思った。

(2) 得られた効果

異なる回生との交流の良い機会となった。また、センターの活動の再認識、学生スタッフの役割を確認することができた。各人の目標をノートにまとめ、学生スタッフが後期活動中に手に取れる場所に置くことで目標実現への意識を継続することが、ある程度可能になるのではないかと考える。この点において、この合宿の目的は達成できたと感じている。

4. 反省点

大きく3つの反省点があげられる。

①準備物の不備

印刷物に一部不備があったので、確認は複数人で行う必要があると感じた。

②計画性の不足

直前まで配布物等を完成できず、リハーサルが不十分なワークがあった。そのためそれぞれのワークの意味づけや、参加者に合宿で何を考えてほしいのかなどを的確に説明できなかったもので、ワーク中に混乱が生じた。

③日程調整

当初、9月11日～12日に実施予定だったが、後期講義の予備・事前登録期間と重複したため日程を変更した。そのため再度出欠確認を行なうなど、日程調整に時間がかかってしまった。日程の確認、決定は注意を要することを今後引き継ぎたい。

5. 学んだこと・今後の課題

当日の運営はその場に応じて臨機応変に対応することが大切だ。しかし、反省にあるように事前準備の重要性を再認識することとなった。しっかりと準備しておけば、当日の運営もスムーズに行うことが出来る。

良かった点としては、幸いにして運営面において大きな混乱が生じなかったことである。今回の会場は、宿泊室、食堂、ワークを行なう多目的室が離れた所に位置しており、移動に時間がかかるのだが、適時、次のプログラム内容の連絡を行い、時間調整を柔軟にすることでプログラム進行を支障なく終えることができた。

「ワークを通して、センターについてコミュニケーションについて学べて良かった。」「初心に戻り、目標を決める機会になって良かった。」といった参加者の声から、今回の合宿で目標としていたことが達成できたと考えている。

今後はこの合宿で学んだことを日々の活動の中で活かし、仲間との関係を含め、より良い環境でボランティア啓発活動に取り組めると考えている。

6. 経 費

交通費補助（7割上限2,000円）	42,870円
宿泊費補助（一人2,000円41名）	82,000円
消耗品	270円
下見時の交通費補助	2,860円
合 計	128,000円

〈報告者：村井 俊介〉

事業名	瀬田夏合宿 恐れず！迷わず！やってみよう!! ボラセン超改革（継続企画7年目）
日時	2017年9月12日（火）～9月13日（水）1泊2日
場所	龍谷大学セミナーハウス「ともいき荘」
実施主体	ボランティア・NPO 活動センター（瀬田）
参加人数	学生スタッフ56名 コーディネーター1名
企画メンバー（学生スタッフ）	藤村一樹（社会3） 多田裕貴（理工2） 加藤翔汰（農学2） 橋本昌尚（農学2） 山近拳児（理工1） 頼田翔平（理工1） 正中菜帆（社会1） 松田 廉（社会1）

1. 経緯・目的

現在センターでは、企画の数が昨年と比べると減少傾向にあり、活動に対する意識の再認識をするという課題をかかえている。また、今年は例年と比べると新しい一回生の学生スタッフが多かったが、日ごろの活動の中で、上回生と一回生または一回生同士で交流する機会が十分

でなかった。そのため、この合宿を通して交流する場を多く設けて、お互いを知り、これからの活動で協力し合える深い関係を築く必要性がでてきていた。そこで夏合宿では、以下の3つのことを目的として合宿を行った。

- ・1泊2日の合宿を通して、学生スタッフ同士の交流を行い、チームワークの向上を図る。

- ・前期の振り返りや自己分析を行い反省点や改善点を明確化する。さらに前期の振り返りの中で、活動の背景や目的を再確認・再認識し、後期の活動を意欲的に行えるようにする。
- ・計画性の向上や聴く力、話す力などのスキルアップを目的としたワークを行い、学生スタッフ一人ひとりが後期の活動をより充実したものにできるようにすることを目指す。

2. 概 要

〈1日目〉

- 12:30 集合
- 13:00 開会式
- 14:10 ワークショップ「追憶」(前期の振り返り)
- 現段階での自分の状況を見つめなおし、後期の活動につなげることを目的に、まずグループで前期でどのような活動をしてきたか振り返りを行った。グループで振り返った後、個人で前期の活動を評価し、後期からどうすればいいか改善点などを考えた。
- 15:10 ワークショップ「対話」(コミュニケーションワーク)
- 1対1で行うワークとグループで行うワークの2段階で実施した。1対1ワークでは自己紹介や他己紹介を通して、自分や他人の情報を整理して、相手に伝えるということをした。グループワークではマップ作りを通して、協力してひとつの物を作るという経験を積んだ。
- 18:10 夕食、入浴
- 20:30 交流会「親睦」
- 22:00 1日目終了



〈2日目〉

- 8:55 朝食
- 9:55 ワークショップ「会得」(スキルUP ワーク)

ミーティングを円滑に進めるためにミーティングの中で自分の役割を意識することを目的として、役割についての解説と二回の模擬ミーティングを行った。

- 12:40 昼食
- 13:40 ワークショップ「集成」(まとめワーク)
- この二日間で得たことを振り返り、後期で、活かしてもらうことを目的に、最初にこの二日間で何を学んだか個人で振り返りを行った。その後、後期でどのようなことを行っていくか個人で目標を立て、多くの学生スタッフと共有することでこれからの活動への勢い付けを行った。またここで決めた目標は名刺サイズのカードに記入してもらい後期でも振り返れる形にした。
- 14:45 閉会式
- 15:30 終了



3. 参加者の声・得られた効果など

(1) 参加者の声

- ・前期でできていたこと、できていなかったことを今一度考え直すことができた。
- ・これまで知らなかった人とたくさん交流することができ、他己紹介で相手のことをより深く知ることができた。
- ・ミーティングでの役割についての大切さを再認識できた。
- ・自分の意見を他の人に伝えることの大切さを知ることができた。
- ・先輩からたくさんのアドバイスをいただき後期からの活動に生かしていこうと思う。
- ・後期の目標をグループに宣言することで、自分の気持ちがより引き締まった。等

(2) 得られた効果

全体として異なる学年やあまり話したことがない学生スタッフとの交流が多く、お互いをより深く知ることができた。また、ミーティングで役に立つスキルや伝えることの大切さも確認することができ、前期の振り返りをはじめとし

た二日間の合宿を通して各学生スタッフの後期からの目標を決めることもできた。以上から、この合宿の目的はおおよそ達成できたと考えている。

4. 学んだこと・今後の課題

企画メンバーの反省点は、準備期間中、当日誰が何を担当するのかの情報共有が十分でなかったため、当日の変更点が必要以上に生じてしまったことである。このことを改善するために、企画メンバーの役割分担や予定の調整をしっかりと考え、先を見据えて準備していくことや、各ワークショップの目的や目標を企画メンバー同士で共有する必要があると感じた。また、変更点が生じたときに臨機応変に対応し運営を行っていくことの大切さを再確認できた。

一方、アンケートの声から、後期の活動や内

容の濃いミーティングにつながるものとなったことがわかり、かつ知り合いが増えたなど二日間の合宿を通して交流でき、意図していたことが伝えられたと思うため、目標は達成できたのではないかと考えている。

今後、この夏合宿で得たこと、感じたことを忘れず、個人個人の目標が達成できるよう企画メンバーが率先して声かけを行い、後期の活動をより充実したものにしていきたい。

5. 経 費

宿泊費補助	47,333円
交通費補助（7割上限2,000円）	33,420円
消耗品	5,744円
合 計	86,497円

〈報告者：加藤 翔汰〉

事業名	深草春合宿 yone's kitchen in 春合宿（継続企画7年目）
日時	2018年3月12日（月）～3月13日（火）1泊2日
場所	龍谷大学セミナーハウス「ともいき荘」
実施主体	ボランティア・NPO 活動センター（深草）
参加人数	学生スタッフ38名 コーディネーター1名
企画メンバー	西山大樹（政策3） 米本圭吾（経済2） 木村太翼（文学1） 松岡俊希（法学1） 吉田 樹（法学1） 上田雄介（政策1） 大嶋優作（政策1） 松田侑子（国際1）

1. 経緯・目的

学生スタッフの1年の活動を振り返り、それぞれの想いを共有する。それらを来年度の活動へとつなげていく。その際、この1年で自分自身がどう成長したのか、来年度の活動にどう関わっていくのかを意識づける。

今回の春合宿では学生スタッフの参加意欲をより引き出すために、センターの魅力を学生スタッフ同士で再確認することに重点を置く。そこから、学生スタッフとして一人ひとりの視点を交えながら学生スタッフはどうあるべきかを共有する。この合宿をセンターの活動が今までよりも活発になる契機とする。

2. 概 要

(1) スケジュール

〈1日目〉

- 13：30～ オープニング・アイスブレイク
- 14：00～ ワーク①
- 18：00～ 夕食
- 19：00～ 交流会

〈2日目〉

- 7：45～ 朝食
- 9：00～ ワーク②
- 12：00～ 昼食
- 13：00～ ワーク③
- 16：00～ クロージング

(2) プログラム内容

ワーク①

どのようなことを意識しながら、一年間の活動をしてきたのかをすごろく形式で振り返った。さらに、普段の活動風景の写真を見て、より具体的に振り返った。

ワーク②

「当たり前を疑え」をキーワードに、日常の風景動画から場面を切り抜き、どのような社会問題が潜んでいるのかを考えた。また、団体がセンターにボランティア募集の相談に訪れるという場面から団体になりきってもらうことで団体の気持ちについてもイメージした。

社会問題は、ボランティアや団体とつながっており、学生スタッフは「社会問題に気付き伝えるという重要な役割」を担っていることに気付いてもらった。

ワーク③

センターの活動でこれからやりたいことや、考えたいことについてそれぞれの想いを語り合った。そして、それをもとに個人で次年度の目標を立て、新たな行動を起こす契機とした。



3. 参加者の声

- ・楽しく活動の振り返りができた。
- ・自分以外の人がこの1年、どんな活動をしてたのかを知ることができた。
- ・「当たり前を疑う」ことから社会問題の解決につながっていくことが分かった。
- ・日常の中に様々な社会問題が潜んでいることが分かった。
- ・回生が変わった上で、自分自身の立場について考えることができた。
- ・自分がどんな先輩になりたいかを考えることができた。

4. 得られた効果

- ・実際に語り合うことで、学生スタッフ一人ひとりの目標をより現実的にすることができた。
- ・3つのワークを通して学生スタッフの役割や、重要性を再確認することができた。

5. 反省点

- ・本番直前に作業量が多くなり、前日などに企画メンバーの負担が大きくなってしまった。
- ・合宿の目的と、ワークの目的に不一致が生じ、企画メンバーの意図が正確には伝わらなかった。

6. 学んだこと・今後の課題

(1) 学んだこと

- ①合宿の目的を達成することができるワークを作成するには相当の時間を要するため、余裕をもってスケジュールを立てる事が重要である。また、適宜全体で情報共有をしておくことで、スムーズに準備を進めることができる。
- ②ワークに、ゲーム要素や、目でも楽しめる工夫をすることで、参加者の集中力や意欲をより高めることができる。
- ③ワークの目的を達成するためには、段階を丁寧に踏むことが必要である。

(2) 今後の課題

この合宿で立てた目標を目標で終わらせないことが大切であると考えます。この合宿を2日間限りのもので終わらせるのではなく、振り返る時間を設けることを考えています。

7. 経 費

消耗品（模造紙等）	2,592円
交通費補助（7割上限2,000円）	13,760円
宿泊費補助（1名1,029円31名）	31,899円
合 計	48,251円

〈報告者：米本 圭吾〉

事業名	瀬田春合宿 VC チェック（継続企画7年目）
日時	2018年3月7日（水）～3月8日（木）1泊2日
場所	龍谷大学セミナーハウス「ともいき荘」
実施主体	ボランティア・NPO 活動センター（瀬田）
参加人数	学生スタッフ25名 コーディネーター1名
企画メンバー（学生スタッフ）	石田進登（理工2） 橋本昌尚（農学2） 頼田翔平（理工1） 正中葉帆（社会1） 景井湧麻（社会1）

1. 経緯・目的

今年度、センターでは学生スタッフが激増し、他のサークルや部活とかけ持ちをしている学生スタッフも多い等の現状がある。そのため、情報共有不足がおきたり、学生スタッフが集まって自分の考えを伝え合う環境が作りにくいと感じ

ている。また、企画・系の活動に対する認識に個人差があると感じている。このため以下の二つのことを目的とした合宿を行う。

- ・今年度の活動を振り返り、企画や班・係活動の意義と活動内容を再認識し、来年度の活動を意欲的に行えるようにする。

- ・学生スタッフ一人ひとりの思いや考えを共感しあえる関係を目指す。

2. 概要

〈1日目〉

13:00 オープニング

13:10 ワークショップ「よりピーチェック」
(関係性向上ワーク)

アイスブレイクを行い、その後、少人数のグループに分かれて自分の趣味や思い出などを話す、メンバーの長所を伝え合うといったワークショップを行った。

15:00 ワークショップ「シャチェック」
(振り返りワーク)

班・係活動の現状の活動を再認識し、来年度の活動の方針を立てることを目的に、各班・係の良い点と問題点、新しい活動の提案を書き出し、来年度の活動をどうしていくかを考えた。

18:00 夕食・入浴

20:30 交流会「うたこチェック」

22:00 就寝

〈2日目〉

7:30 起床

8:00 朝食

9:00 ワークショップ「いっしーチェック①」(企画ワーク①)

企画の立案から実施までの流れを理解してもらうことを目的に行った。企画の流れについて説明し、グループで企画書を作成した。

12:00 昼食

13:00 ワークショップ「いっしーチェック②」(企画ワーク②)

模擬ボラセン会議を行い、企画ワーク①で立てた企画を発表した。



14:00 ワークショップ「リヴァイチェック」
(まとめワーク)

二日間のワークショップの振り返りを行い、その後、来年度の個人の目標を立て発表するワークショップを行った。

15:00 閉会式

15:30 解散

3. 参加者の声・得られた効果など

- ・今後の活動方針を決めることができ、今まで気づかなかった問題に気づくことができた。また、自分だけでなく他の学生スタッフが何を課題としているかが分かった。
- ・全体的に今年度の活動を振り返ることができ、企画の立て方や、企画の発表の仕方を学ぶことができた。
- ・自分の考えをしっかりと持ち、その考えを周囲に伝えるということを意識して行い、センターでの活動に生かしていきたい。
- ・企画ワークでは、短時間で企画立案からボラセン会議の模擬練習まで行い、段取り力や仲間との団結力を向上させるきっかけとなった。
- ・来年度の目標を個人で立て、今後どのように活動していきたいかを考えることができ、来年度の活動のモチベーションを上げることに繋がった。

4. 学んだこと・今後の課題

- ・リハーサルを十分に行えていなかったため、企画メンバー内で認識の差があり、合宿当日に混乱があった。そのため、事前のリハーサルを行い、ワークショップの内容や準備物などを確認する重要性に気付いた。今後企画やワークショップなどを行う際は、事前にリハーサルを行う。
- ・当日のワークショップの中には、内容が複雑なものもあった。前もって内容を学生スタッフに伝えるなど、余裕をもって準備を行うことが大事だと感じた。
- ・春合宿に参加ができなかった学生スタッフが多かったため、参加できなかった学生スタッフに対して春合宿の内容を伝える機会を作った。
- ・ワークショップを通して他の班・係がどのような活動をしているか、課題点や改善点に関してお互いの意見を伝え合い、来年度の活動

を見据えた話し合いができた。

- ・二日間の合宿を通じて、学生スタッフ同士が積極的に自分の思い・考えを発信することが



できた。また、来年度の行動目標を立てることで学生スタッフのモチベーションを上げるきっかけになった。

5. 経 費

宿泊費補助	19,551円
交通費補助（7割上限2,000円）	13,050円
消耗品	6,046円
合 計	38,647円

〈報告者：正中 菜帆〉

外部団体主催の研修会への参加

外部団体が主催する研修会やセミナーに学生スタッフが参加し、そこでの学びをボランティア・NPO 活動センターに持ち帰り、組織の運営や企画、ボランティアコーディネートに役立てます。

セミナー名	大学ボランティアセンター学生スタッフセミナー2017
日 時	2017年9月4日（月）～5日（火）1泊2日
場 所	セミナー会場：大阪市立青年センター KOKOPLAZA 宿泊会場：新大阪ユースホステル
実施主体	NPO 法人ユースビジョン
全体参加人数	大学ボランティアセンターで活動している学生スタッフ合計60名
参加人数	深草学生スタッフ4名、瀬田学生スタッフ4名

1. 経緯・目的

活動を向上させること、学生スタッフのスキルアップを図ることを目的に本研修に参加しました。

2. セミナー概要

〈1日目〉

- ①オリエンテーション、アイスブレイク
- ②全体会1「ボランティア」についてとことん考えてみよう
- ③テーマ別セミナー
 - ・コーディネーション力を磨く
 - ・広報について学ぶ

④交流会

〈2日目〉

- ①朝のアクティビティ
- ②全体会2「ボランティアセンターがある意味、学生スタッフの役割を考える」
- ③センター別振り返り「センターでの学びをどう活かす？」

④写真撮影、セミナー終了

3. 参加者の感想

藤原 純

（文学部 哲学科 3年次生）

学生スタッフとして約3年間活動してきて、当たり前になっている自分たちの日々の活動を、他大学と比較して見直すことを目的に参加しました。この合宿に参加して今後の活動に活かしていきたいと思った点は2つあります。

まず1つ目として、コーディネート方法の多様性です。他大学の学生のコーディネーションは、同じ分野のボランティアでも、どういった活動内容を推しているのか、大学近辺の地域の違いによってそれぞれのコーディネート方法があります。各大学のボランティアを紹介する工夫の違いは、とても興味深く、私たち龍谷大学の個性も見つけられました。

2つ目に、自分たち学生スタッフの位置づけについてです。コーディネートをする際、一般

学生と学生スタッフ、ボランティア団体を意識して常に活動するという姿勢です。事務的になってしまうのではなく、思いと意思をつなげる作業なのだから、丁寧にやっていきたいと改めて思えました。

自分たちの活動を見直し、理解を深めることが出来たので、上記2つの点をもとに、今後よりよい活動ができるよう努めたいと思います。

辻 祐児

(法学部 法律学科 3年次生)

今回初めて学生スタッフセミナーに参加しました。2つの大きな学びがありました。1つ目はボランティアの概念について改めて考えることができたこと。次に、他大学との交流により、ボランティアセンター及び学生スタッフについての多様な価値観に触れることができたことです。

1つ目のボランティアの概念については、ある事例をもとに自発性、無償性、社会性について考えたことにより、ボランティアの本質について改めて見つめなおすことができました。

2つ目は実際に事例をもとにボランティアコーディネーターの果たす役割、すなわち学生スタッフの役割について、他大学の学生の多様な価値観を取り入れながら考えることができました。このことにより多くの新たな発見がありました。おすすめボランティア紹介の方法などを聞くことができたので、これらの発見を今後、自分のセンターでの活動に活かしていきたいと思います。

竹本 智紀

(法学部 法律学科 1年次生)

今回、この2日間のセミナー合宿に参加させていただき、私は改めてボランティアコーディネーターの役割は責任重大だと感じました。もし、一般学生に間違ったボランティア内容を伝えてしまうと、学生に迷惑をかけてしまうし、ボランティア団体との信頼関係も失われてしまいます。このようなことを防ぐためにも、普段からチラシなどを読んで内容を把握しておくことと、実際にボランティアに参加して、どのような活動だったかを学生に伝えるということが大切だと思いました。また、テーマ別セミナー「コーディネーションを学ぼう」で体験したロー

ルプレイがとても印象に残っています。今まで模擬コードは何度かやったことはありますが、今回のように様々な条件を付けて模擬コードを行うということはやったことがなくて、すごく新鮮でした。その中で学べたことは、自分がお勧めできるボランティアを一つ見つけておくこと、学生に質問をして、一方的に話さないことなどです。今後のボランティアコーディネーションに生かせることを学べて非常に良い経験になりました。

松岡 俊希

(法学部 法律学科 1年次生)

学生スタッフセミナーに参加し、他大学の学生スタッフの方々とのコミュニケーションやワークを通して、ボランティアセンターの違いに気がついた。ワークの中で条件付きコーディネーションをしたのだが、その中で他大学の学生スタッフの話を聞いて多くの発見があった。ボランティアコーディネーションをすることがない大学があることや、職員に推薦をしてもらわないと学生スタッフになれない大学が存在することを知り驚いた。以前から先輩の方から私の所属しているセンターは環境が整っているという話を聞いていたが、このセミナーを通して改めてそのことを実感した。恵まれた環境で活動できることを自覚して、これからの活動は今まで以上に意味のあるものにしたいと強く感じた。また、他大学の学生スタッフのコーディネーションを受けて、よかったと感じた点などこのセミナーで学んだことを、自分の所属しているボランティアセンターにも還元していきたいと考えている。

曽根 竜也

(社会学部 現代福祉学科 2年次生)

春休みに開催されるリーダーセミナーに参加してこの春から幹部として活動してきた中での今回のセミナーでは、自身の成長を感じることができた2日間でした。

1日目の全体会でボランティアについて改めて考えたとき、自分の中での価値基準が明確にあることに気づきました。それは1年と少し学生スタッフとして活動し、ボランティアを近くで感じてきたことで定着していったものでした。一方で他の多くの参加者の意見を聞き、新

たな知見を得ると共に固定観念に囚われないよう、多様な考え方を受容し、模索し続けることの必要性を感じました。

2日目のテーマ別セミナーでは広報について講義を受けました。「広報」と「広告」、「伝える」と「伝わる」の違いなど、今後の企画の広報などに役立つ知識を得ることができました。また、SNSや掲示板の形式など、他大学から参考にできるものも多くありました。

今回のセミナーで得たこと、感じたことは自身の今後の活動のためになったと思います。しかし、自分ひとりで終わるのではなく、幹部として、先輩としての立場から全体に還元していきたいと思っています。

加藤 翔汰

(農学部 資源生物科学科 2年次生)

私はこのセミナーに参加するのは2回目ですが、去年は自分と同じ学生スタッフでも大学によって、考え方が違うことを知ることができた。それから約一年が経ち、私はボランティアコーディネートのやり方をもっと工夫した方がいいのではと感じ、他大学から刺激をもらいたいと思い参加することにした。

今回のプログラムは昨年と同様、ボランティアについて考えるセミナーやボランティアセンターがある意味、学生スタッフの役割を考えるセミナーがあった。また、昨年とは異なる「コーディネーション」や「広報」をテーマにしたワークが行われた。それぞれのワークで、人によってボランティアの考え方や自分では気づくことが出来なかった視点に触れることができた。

特に印象に残っているテーマ別セミナーの「コーディネーションを学ぼう」では、他大学のコーディネーションの仕方に触れることができた。ここで自分たちの大学にしかないやり方があることに気がついた。それはボランティアの情報を実際にボランティアに参加して写真を撮りアルバムのようにしてまとめた「発掘ノー



ト」だ。「見やすくて分かりやすい」など他大学からも大変評判が良く、この活動は継続してさらに良くしていきたいと思う。

今回のセミナーを通して私は、自分たちのセンターの特徴を知ることができ誇りに思う部分もたくさん発見できた。この気持ちをこれからも継続できるように活動していこうと思う。

正中 菜帆

(社会学部 現代福祉学科 1年次生)

私は9月4日～5日に行われた、大学ボランティアセンター学生スタッフセミナーに参加しました。

このセミナーでは、全国の大学ボランティアセンターの学生スタッフが集まり、ボランティアの知識を深めたり、今後どのようにボランティアセンターを良くしていったらいいのかを考えたりしました。私はまだ1年生ということもあり、このセミナーに参加するまでは、学生スタッフとしてどんな風に活動していけばいいのか不明確でした。しかし、セミナーに参加して講義を聞いたり、他大学のボランティアセンターの状況や活動内容を聞いていくと、「ここをこんな風に変えていけば、龍大のボランティアセンターもより良い方向に行くのではないかと」と改善点を見つけ、目標がわかった上で、学生スタッフとしての活動をもっと頑張ろうと思えるきっかけになりました。

今後、ボランティアセンターをより良い方向に変えていくために、今回学んだことを他の学生スタッフに発信して、自分自身も学んだことを最大限に生かしていこうと思います。



山近 拳児

(理工学部 物質化学科 1年次生)

私は9月4日、5日に開催された学生スタッフセミナーに参加させていただきました。このセ

ミナーを知ったきっかけは先輩からのお誘いだったのですが様々な大学の学生スタッフの方が参加すると聞き、当日までどんな人が来るのかと楽しみにしていました。

当日のセミナーの内容はどれも学生スタッフにとって、とても大切であると思いましたが、中でも私の心に残ったものはテーマ別セミナーというものでした。このテーマ別セミナーには2つのテーマがあり、私は「コーディネーションを学ぼう」に参加しました。この「コーディネーションを学ぼう」でやった模擬コーディネーションは、他大学の学生スタッフと一緒にやったので、私たちのセンターにはないその大学特有のやり方を知ることができました。その

うえ、今までは気が付かなかった私たちのセンターの良さも知ることができました。

2日間のセミナーでこれから学生スタッフをやってく上で、大切なことを学ばせていただきました。そして来年以降に入ってくる後輩たちに、私に先輩がしてくれたようにこのセミナーを紹介したいです。

4. 経 費

交通費補助（7割上限2,000円）	8,540円
参加費補助（一人5,000円8名分）	40,000円
合 計	48,540円

〈報告者：藤原 純〉

セミナー名	大学ボランティアセンター学生スタッフリーダーセミナー2018
日 時	2018年2月8日（木）～9日（金）1泊2日
場 所	セミナー会場：大阪市立青少年文化創造ステーション KOKOPLAZA 宿泊会場：新大阪ユースホステル
実施主体	NPO 法人ユースビジョン
全体参加人数	大学ボランティアセンターで活動している学生 2018年度の運営の中核を担うリーダー層 合計37名（15大学キャンパス）
参加人数	深草学生スタッフ4名、瀬田学生スタッフ4名

1. 目 的

このセミナーはボランティア・NPO 活動センターの次年度の活動を担うリーダーが、「リーダーとは何か」についてもう一度深く考え、組織の運営を学び、よりよい活動を行うことを目的として実施されました。他大学の学生スタッフと意見交換を行い、議論することで視野を広げました。

2. セミナー概要

〈1日目〉

- ①開始、アイスブレイク
- ②大学ボラセン活動紹介
- ③合意形成について
- ④リーダー、リーダーシップについて考える
- ⑤交流会

〈2日目〉

- ①ミーティングの準備・進行のポイントについて
- ②セミナー後の行動計画作り
- ③全体共有

④組織運営に関する質問、まとめ

3. 参加者感想

平尾 匡識

（文学部 日本語日本文学学科 2年次生）

私が今回リーダーセミナーに参加した理由は、これから一年間、広報班の班長として務めていくからです。私が班長になってから、二、三回ミーティングを行いましたが、やはり、皆を引っ張り、まとめるのは思いのほか難しく、自分の力不足に悩まされていました。しかし、今回のリーダーセミナーで、様々なノウハウを学びました。まず、リーダーという存在は、一から百まで、一人でグループをまとめ上げるのではなく、リーダーシップを使って、全てのメンバーが担うことができるのだとわかりました。そのためには、グループの目標・課題の達成のみに働きかけるだけではなく、メンバーとのコミュニケーション・雰囲気づくりにも努めていく重要性を改めて感じました。ミーティン

グには、趣旨によって様々な形式があり、使い分ける必要があること、行なっているミーティングのメンバーの様子を正確に判断して、うまくいっているところ・うまくいっていないところを把握する必要があります。また、メンバーの性格や、先輩との距離感などをみつつ、ミーティングに働きかける必要があるということなど、たくさんのことを学びました。

佐々木 大悟

(政策学部 政策学科 1年次生)

私はこのリーダーセミナーに参加するまで、リーダーのイメージは漠然としていて、具体的に何をしていけばいいのかということまで考えられていませんでした。このセミナーに参加している各大学のリーダーの方たちと話をし、自分のやりたいことや、学生スタッフとしてどのようなことを実行していけばよいかの多少なりとも分かったように思います。実際に他の大学のリーダーの学生達から、様々なアドバイスももらいました。さらに、他大学の方とかわるだけでなく、一緒に参加した龍大の先輩ともじっくりと本音で話し合うことができたのはこのセミナーに参加したからこそだったと思います。セミナーで悩み相談に乗ってくれた先輩のように、自分もこれからの活動を大切に、来年、後輩たちに何か残せるものを作りたいと感じました。講義やワークも学ぶことばかりだったので、これからの活動に活用していきたいです。



川村 有希

(政策学部 政策学科 1年次生)

私は、今回、1回生の代表として学生スタッフリーダーセミナーに参加しました。多くの方と出会う機会があり、私にとって貴重な時間となりました。他大学の活動内容は、自分達の活

動内容と異なっており、気付きや発見もたくさんありました。今回学んだ事で自分達の活動を見直す事ができ、ミーティングや引き継ぎのやり方など、今後の活動で変えなければならない面もあることに気付きました。今後、そういった所を変えていけるよう、これからの活動に積極的に取り組みたいと思いました。

佐藤 鴻河

(政策学部 政策学科 1年次生)

私は学生スタッフリーダーセミナーに参加して、リーダーや普段の活動の在り方について学び見直す機会となりました。これまで他大学との交流のある活動に参加したことがなかったため、自分たちとはまた違ったボランティアセンターの在り方についても知ることができ、今までとは異なる視点から自分たちの活動について考えることができました。深草キャンパスからは今回諸事情から、幹部（代表、副代表）が二人しか参加できませんでしたが、参加したメンバーはもちろん、参加していないメンバーとも協力してセンターをより立てていきたいと思っています。

玉田 遼河

(社会学部 コミュニティマネジメント学科 2年次生)

講義とグループワーク、そして他大学のスタッフとの交流を通じて、内容の濃い時間を過ごすことができました。講義の中で一番印象に残ったのはリーダーシップのあり方についてです。組織の運営において大切なグループの発達と目標の達成を実践していくスキルのことで、このスキルはリーダーだけでなく、組織のメンバーが持つべきものであるという話でした。学生スタッフ一人ひとりがリーダーシップを発揮できるように促進する事が、今後私が行うべき組織のマネジメントであると考えました。また、他大学のスタッフとメンバーのモチベーションの高め方、組織の目標の立て方、共通認識の形成の重要性など各大学の課題を挙げつつ話し合う中で、様々なヒントを得ることができました。2日間の濃い時間で学び得たことと考えたことを、今後のセンターで活動の中で実際に行動に移していくことで、メンバー全員がより活発に、楽しく活動できるように支えていければと思います。

橋本 昌尚**(農学部 資源生物科学科 2年次生)**

私は今回初めてリーダーセミナーに参加して学んだことが二つあります。一つ目は合意形成の取り方についてです。以前までは合意形成は重要だと感じていましたが、どのような話の進め方をすればいいか解かっていませんでした。しかし、今回のセミナーでグループメンバー全員の共通意識を決め、話を進めることで合意形成を取りやすくなることを学びました。二つ目はリーダーとリーダーシップの役割についてです。リーダーシップはリーダーがとるものだと思いついていましたが、リーダーだけでなくメンバーもリーダーシップを取り、組織の目標達成やメンバーの成長につながることを知ることができました。

また、この二日間のセミナーを通して、他大学との交流でさまざまな活動内容や考え方を知り、考え方の幅が広がりました。この経験を生かしてこれからの活動に励んでいきたいと思えます。

頼田 翔平**(理工学部 環境ソリューション工学科 1年次生)**

様々な大学のリーダーに準ずる役職の人達が集まる、リーダーセミナーに参加させていただきました。ミーティングの時、どのような態度で取り組むべきか、話が詰まった時の対処の仕方などを、他の学生の方たちと楽しく話しながら学ぶことができ、とても有意義な時間を過ごせました。今回のセミナーを通して、目的・目標決めや共通認識を増やすことの大切さをとても実感しました。グループで話し合いをしていて



意見が割れた時に、目的・目標がしっかり決まっていたのなら、目的・目標に戻り、その上で考え直してみると、この方が目的に合うなとグループ内のみんなが納得した上でとてもスムーズに話し合いが進みました。

また、言葉の意味をグループで違うように認識していたため、話し合いが難航するという場面があり、グループ内での共通認識をできるだけ多くすることの大切さを学びました。これから、ミーティングなどの話し合いの場面で今回のセミナーで学んだことを活かしていきたいと思えます。

二木 亮英**(社会学部 現代福祉学科 1年次生)**

初めは各大学のボラセンの幹部たちが集まるということで、龍谷大学瀬田キャンパスの副代表として恥ずかしくないように振舞おうととても緊張していました。

いざ自己紹介が始まった時、普通の学生スタッフの人もいて安心したのと共に、幹部でなくても来ている学生を見て、自分ももっと頑張らないといけないと気が引き締まりました。

二日間のセミナーの中で一番印象に残っているのが合意形成についてです。少ない時間制限がある中で、初めて出会った人たちと意見を出し合うことがとても大変でしたが、一息つく暇がないくらいみんなが頑張っていて取り組んだので、終わった後の皆のやり切った顔を今でも覚えています。

今回学んだこと感じたことをセンターに持ち帰り、自分たちなりに形にできたらと思っています。

4. 経 費

交通費補助 (7割上限2,000円)	7,640円
参加費補助 (一人5,000円8名分)	40,000円
合 計	47,640円

〈報告者：橋本 昌尚〉